

CDA インタビュー

重度の障害がありながらも、大学卒業後に学習塾の先生を経て、総合学習センター柳岡塾を設立した柳岡さん。教え子のお話を聴くなかで相談業務の仕事をめざし、キャリアカウンセラー資格を取得。障害者卓球でパラリンピックをめざした経験を持ち、講演プラスワークショップというオリジナルのCDA活動を展開する柳岡さんに、これまでのキャリア、活動の内容をうかがった。

支えてもらう側から支える側へ 「車いすの元気配達人」

柳岡 克子（会員番号 CDA140068）

——CDA資格を取ろうと思ったきっかけは何ですか？。

塾の教え子が「失業した」とやってきたことです。20数年進学指導をしてきて、その子らに合った高校なり大学なりへ導いて、合格を喜び合ったはずなのに、その後どういったところに就職し、どうしているかあまり知りませんでした。きょうとうまくいっているだろうと思っていたのに、一人、二人と地元へ帰ってきて、「何か仕事ない？」というのです。親の介護で仕方なく故郷へ帰る人もいますが、まだそんな年齢でもなく、都会で就職できたことを喜んでいました。にもかかわらず、「辞めてきた」と。私は、久しぶりの再会を喜ぶ間もなく話を聴くことにしました。いろい

ろ話を聴いているうちに、仕事を決める時に本当にやりたいことを考える間もなく就職してしまっていることがわかりました。たくさんの企業に願書を出し、手当たり次第に面接し、マニュアル通りの受け答えで合格し、その会社が自分にとって本当にやりたい仕事の場所なのかもわからないままに、とにかく内定をもらうことで安心し、それ以後は卒業まで遊びに明け暮れ大学生活を謳歌していました。入社したら上司とのコミュニケーションもうまくいかず、仕事も自分に合わないと勝手に思い込み、相談する仲間にも恵まれず、彼氏や彼女にあたりちらし別れてしまい、田舎に帰ってきた、というのです。もう塾を卒業してしまったとはいえ、長い間関わってきた



ものとして、何とかしたいと思いました。しかし、私には、勉強は教えられても、相談のプロではありません。仕事を見つけてきてもその子に合うかどうか、続けられるかどうかわかりません。私もその子にぴったりの仕事を探せる支援ができればいいなと思っていました。そんな時ファイナンシャルプランナーの研修会で知り合った友達に、キャリアカウンセラーという資格があると教えてもらいました。すぐにインターネットで調べて、私が学びたいと思っていたことを習える資格だとわかりました。でも通学が大阪で、車いすの私には難しいと思いました。そこであきらめないのが私です。エレベーターのない御坊駅に電話してリフトを使って線路を、階段を使わないで渡してもらえることになりました。それから毎週土曜日に車いすで朝5時代の始発に乗って大阪駅の近くのビルで芦田先生の講座を受けることになったのです。講座終了後の自主研修にも参加し1次試験に合格。2次試験は何度か失敗しましたが、何とか合格することが

できました。

—— どういった理由で「キャリアコンサルタント」をお仕事として選ばれましたか？

私は、生まれつき手足に障害があって歩くのが不自由です。しかし、神戸の薬学部を卒業しました。卒業したものの障害のある体ではなかなか就職ができませんでした。そこで高校時代通っていた学習塾でお世話になり、先生という仕事をしていました。その後、独立し塾をしていた時、少しの時間

薬局でアルバイトをしたのです。レジのパートさんといろいろ話をして仲良くなると、「実は辞めたい」という相談を持ちかけられ、聴いていました。でも私には引き留めることができませんでした。私も立ち仕事が肉体的に辛く私も辞めたかったからです。座ってできる仕事に就きたいという気持ちが強くなっていました。そんな時CDAの試験に合格し、今までの経験を活かした相談業務を仕事にしたいと思い、学校などに営業に行きました。まずは、私の生い立ちを聴いてもらうことで障害者への理解を深める人権についての研修の中で、パラリンピックをめざし障害者卓球をしてきたことなどを話しました。そして障害者が世間で認めってもらうためには資格を取ることが必要だと気付き、ファイナンシャルプランナーや宅地建物取引主任者や行政書士、ケアマネージャなどの資格取得にチャレンジしたことを話しました。「障害がある私に頑張れることが健常者の皆さんにできないことはない。しっかり自分自身を見つめ、多くの人に役に立

てる仕事を見つけて下さい」と心をこめて話しました。それがきっかけとなって、あちこちの高校で講演プラスワークショップという私のオリジナルのCDA活動が始まったのです。

——CDA養成講座やCDA資格取得によって、何か得ることや変化はありましたか？

学習塾を経営してきて、生徒を高校や大学に合格させることが目標でした。しかし、その学校を決めた時、本人の気持ちがどれぐらい入っていただろうかと振り返ると、親の意向や成績で決めていたような気がします。養成講座では、本人の考えに沿ったアドバイスや本人の考えを引き出すことが重要でした。こちらの考えを押し付けたり、「あなたの成績ではこっち」と他の選択肢を与えなかったりしました。それが本人の気持ちを全く考えていなくても。これでは、きちんとしたアドバイスや進路指導はできないと思いました。その気付きが資格取得につながり、改めることで今多くの人から信頼されるCDAとなれたのです。技術的なことはもちろん、人との接し方やコミュニケーション能力も向上したと思いますし、きちんと人の話を傾聴する姿勢が身についてきたように思います。

——このお仕事をを行うにあたって、「心構え」や「モットー」「自分に言い聞かせていること」などはありますか？

学校教育は、人格形成、人間形成、全人的な教育を担う場です。“世の中にいっぱいいろ



んな仕事がある”というようなことについて、十分な理解をさせ、子どもたち一人ひとりが自分の個性や能力を自分で発見し、どのようにより良く生きていくか、またどんな仕事を自分が選んでいけばいいのかということについての基本的な指導が必要なのです。

講演では、「あなたの命はかけがえのないたった一つのものだから大切にしよう」とか「何のために勉強するのか、を真剣に考えましょう」と話していますが、具体的にワークシートに記入してもらい自分自身を見つめ直してもらうということから導入してもらいました。

- 小さい頃なりたかった職業は何ですか？
- 今、あなたの夢は何ですか？
- 今、あなたが夢中になっているものは何ですか？
- 自分が幸せだなと感じる場面、状況、内容を書いてください。
- どういう時に達成感を感じますか？
- ほめられてうれしかった思い出を書いてく



ださい。

- 今までで一番がんばったと思うことは何ですか？
- 自分はどんな職業に向いていると思いますか？
- うれしい時、喜びをだれに話したいですか？
- 何のために仕事をするとおもいますか？
- あなたにとってお金とは何ですか？
- お金で買えないと思うものをあげてください。
- 尊敬する人をあげて、その人のどういうところを尊敬しているのか書いてください。
- あなたが「社会のために役に立っているな」と思う職業をあげてください。
- 自分の長所をあげてください。
- 周りの人はあなたをどう思っていると思いますか？
- 学生と社会人の違いをあげてください。
- 自立とは何だと思えますか？

このような質問に答えていくうちに、今までじっくり考えてこなかったことや自分自身について真剣に考えるきっかけになればと思います。一人ひとり違ってあたりまえで正しい答えはありません。

次のワークはかかわっている人をあげてもらいました。

- ごはんを食べるまでにかかわったと思う人をあげてください。
- ソックスを履くまでにかかわったと思う人をあげてください。
- おなか痛くて病院で検査をして薬をもらうまでにかかわったと思う人をあげてください。
- レンタルショップでDVDを借りて歌手のコンサートを見るまでにかかわったと思う人をあ

げてください。

このワークをすることで衣食住さまざまな人が自分の身の回りにかかわっていることに改めて気づくのです。

3回目のワークは具体的な職業についての知識を探ります。

- 公務員といわれる仕事をあげてください。
- 自営業の良いと思うところをあげてください。
- サラリーマンの良いと思うところをあげてください。
- 資格を活かして働いているなどと思う職業をあげてください。

わが塾では授業のあいまにこのようなワークをしながら学習意欲を高めています。この手法でコーディネートしてほしいと5回ぐらいの講座を頼まれることもあります。今回の高校では職業人を学校に招き仕事の話をしてもらうカリキュラムを作っていく計画だそうです。著名な方に交じって私もお話をさせてもらうことになったわけですが、わが塾で作成したこのワークシートをもとに話を進めていきます。

次の段階として、生徒がグループで職場訪問をします。訪問前の事前学習では、「あいさつ」「身だしなみ」「礼儀作法」「聞きたいこと・見たいこと」を整理させ、目的を持って参加することを指導します。事後には、単なる感想ではなく「新しく学んだこと」「参加する前と後での変化」など具体的に書いてもらいます。最後に、保護者や企業・NPO・地域の人々との意見交換会なども提案していきたいです。

——このお仕事を行っている中で、課題、悩み、抱負、喜びといったもの的一端を、差し支えない範囲でお聴かせ下さい。

さまざまな職業について知り、体験することによって自分は何をしたいか、何に向いているかをしっかり考えて将来に対する目標を持ちます。目標が持てたら、目標に向かってがんばることができるのです。多くの子どもたちの教育にかかわってきたものとして、一人ひとりに生きる力をつけてもらい、これからの子どもたちの夢や希望の実現へのお手伝いできれば幸いです。

——今後のお仕事の展望について、お聴かせ下さい。

「支えてもらう側から支える側へ」今まで世間では、障害者は支えられる側だと思われていました。しかし、私のようにさまざまな資格にチャレンジし、堂々と社会の役に立つことができることを多くの方に知っていただき、健常者の相談に乗るといって支える側になれるということを知っていただきたいのです。障害のある仲間にもこの資格を知ってもらい、「座ってできるよ」と伝えたいです。きっと人の心の痛みがわかるCDAになれることと思います。現在は講演活動を中心に全国を走り回っています。少しずつですがCDAという資格

の認知が広がってきたように思います。リーマンショックや東日本大震災の影響で失業者も増え、自信を失っている方も多いと思います。そんな時CDAは役に立てるのです。誰かのために役に立てる仕事としてこれから注目され社会的にも大きく貢献していく資格となることでしょう。

これからも前向きに生きる障害者としてCDAの資格を活かした相談に乗っていきたいと思います。どちらでも出向いて行かせていただきますので、ご連絡ください。

柳岡 克子 プロフィール

昭和39年和歌山県生まれ。生まれつき手足に重度の障害がありながらも、母の送り迎えで普通の小中高校を卒業。神戸学院大学薬学部在学中、手動式の車の運転免許を取得。卒業後は、学習塾に就職。3年後、総合学習センター柳岡塾を設立。アルバイトでドラッグストアに薬剤師として勤務。障害者卓球でパラリンピックをめざし世界大会で好成績を収め、引退後、障害者団体の会長としてボランティア活動をしている。最近は薬局を退職し「車いすの元気配達人」として全国講演活動をしている。CDA資格取得後は、高校や中学校でキャリア支援のワークショップや、自身の様々な資格へのチャレンジ経験をもとに相談会などを行っている。

<http://cocotiyoshiko.mikosi.com/>

柳岡克子と検索していただきますとホームページがご覧いただけます。

